

KAC便り



2017年 春号

皆さんこんにちは！春です！今年も、犬のフィラリア予防と狂犬病予防注射の季節です！今回の KAC 便りは、「犬猫の妊娠、出産」「高齢動物の介護」についてです。

犬猫の妊娠、出産について

○妊娠

犬猫は多胎で、一度に複数頭生まれます。人と違って全ての子が順調に育て健康に生まれることは難しく、生存率を上げるために一度に出産して育てられる最大の数を産むようにできています。

犬猫の妊娠期間は約 63 日間で、猫はやや長引く傾向にあります。

猫は交尾排卵動物なので、受精の時期が違い、発達が違うまたはお父さんが違う胎子が出産される可能性があります。

犬猫の妊娠診断は人と異なり、血液や尿を使つての検査は簡易化されておらず、一般的ではありません。妊娠診断は交配後 22～30 日で超音波検査により行います。

レントゲン検査での妊娠診断は交配後 43～45 日から行えるようになります。

これらの妊娠診断で必ず胎子の数を確定できるというわけではなく、子宮内の胎子の向きや発達具合によっては識別困難となる場合があります。胎子の生存確認は超音波検査で心臓の動きを見て行います。

妊娠 40 日目を過ぎると腹が大きく目立ち始め、体重が増えてきます。

分娩 22 時間前から直腸温が 1～1.5℃下がる(猫は個体差あり)

→分娩予定の 1 週間前位から自宅で直腸温を測りましょう。1 日の同じ時間帯に 1 日 2～3 回測定し、通常体温を基準に体温低下を判定します。

○分娩

第 I 期:陣痛開始から子宮頸部の拡張までの間のことで、数時間から 24 時間かかります。分娩前の 1～2 日に起こります。

食欲が低下し、巣作り行動を起こします。

第 II 期:陣痛が起こって子宮口が広がり、胎子が出産されます。

3～6 時間で完了します。(24 時間持続することもあります)

陣痛が起こっても胎子が生まれないうならすぐに病院に連絡いただくか、来院してください。

第 III 期:新生子を娩出することに胎盤が排出されます。母親が娩出された胎盤を食べると下痢をすることが多いので、胎盤が出たら撤去するのが好ましいです。

母親は臍帯を噛み切つて、羊膜を取り除き新生子をきれいにします。

2 頭以上の胎子がいる場合、分娩と分娩の間に休息期があります。休息期が続くようなら、犬なら軽い散歩に連れ出たり、

猫はトイレに行くことで次の分娩が促されます。

○難産

犬の難産はどの犬種でも起こりますが、チワワやトイプードルなど小型犬で起こりやすく、パグやブルドッグなど短頭種、柴でも多いと言われています。猫の難産発生率は犬より少ないですが、犬よりも流産を起こしやすいです。肥満、高齢動物、初産、子宮捻転、骨盤の変形がある、鼠径ヘルニアがある個体も難産になりやすいと言われています。

- ・直腸温低下後 24 時間以上経過しても分娩が起こらない
- ・緑色をしているなど、異常な外陰部分泌物がみられる
- ・強い陣痛が持続するにもかかわらず胎子が出産されない
- ・胎児の一部が出産されたままそれ以上進まない
- ・破水が起こって数時間経っても胎子が出産されない
- ・母親が元気消失しきりに排尿姿勢を示す
- ・陣痛が弱く胎子が出産されない

などの場合は難産の可能性がありますので、動物病院にご相談下さい。

また、夜間の場合は救急病院に連絡を取れるように事前に準備するようにして下さい。

人間が補助する場合は胎膜を破った後に、呼吸ができるように鼻と口の周りをティッシュペーパーでふき取り、体をタオルでふいて下さい。このとき声が出れば呼吸ができた証拠です。胎子の呼吸が始まり泣き声が聞けたら、臍帯を糸で結んで胎盤側を切ります。

○産後の問題

出産後の母親に起こりやすい問題が低カルシウム血症、急性子宮炎です。母子共に少しの変化でも見逃さないように、変化があればすぐ動物病院に御相談ください。

- ・低カルシウム血症

妊娠後期～出産後に起こることが多く、母体から胎子の骨格へのカルシウム供給、乳汁へのカルシウム喪失、食物中のカルシウム不足、副甲状腺の萎縮等が考えられますが、原因は明らかにはなっていません。

症状:呼吸速迫、振戦(ふるえ)、痙攣→最悪死に至る

治療:カルシウム剤を静脈点滴、バランスの取れた食餌

子どもの頭数が多く再発の恐れがあれば数頭人工哺乳に切り替える

予防:分娩 10 日前から過剰なカルシウムを与えない、バランスの良い食餌を与える

- ・急性子宮炎

難産、胎盤停滞や通常の産後に、膣から逆行性に細菌感染することによって起こります。

症状:子宮から悪臭のする悪露排出、発熱、食欲不振、嘔吐、貧血、脱水、ショック等

治療:抗生物質投与、点滴等対症療法、場合により子宮収縮剤投与、卵巣子宮摘出

妊娠出産は、病気ではありませんが、母体に大きな負担がかかる大仕事です。常に母体をよく観察し、疑問や心配なことがあれば、お早めに獣医師に相談しましょう。

獣医師 増田



高齢動物の介護

獣医療の進歩と共に、動物たちの寿命も延びてきましたね。動物たちと一緒に長く暮らせることは、飼い主さんたちにとって嬉しいことでしょう。

しかし、その反面、介護が必要な動物も増えています。動物も、体の衰えと共に気持ち的にも不安になってくるようです。動物自身も「なぜ今まで出来ていた事ができないのか分からない」というストレスを感じることでしょう。その時にパートナーである飼い主さんが、露骨に残念な声や態度をしてしまうと、さらに老いを感じてしまいます。

介護は大変かもしれませんが、飼い主さんも動物もできるだけストレスを避けて、良い時間を過ごすようにしましょう。

・難治性の病気に対する介護 どこまでするか

重い、完治が望めない病気になってしまった場合、飼い主さんがどこまで治療をするかの決断が求められます。例えば大学病院など2次診療を希望し、できる限りの治療をするのか、近くの動物病院でケアを受けながら生活の質(QOL)を守るか、その場合、どこまでのケアを希望するのか、さらに、何もせず、看取るのか・・・等々選択肢は、様々ですので、その動物の年齢や病状、治癒の可能性などを基に、獣医師と考えていきましょう。

・食欲不振

年をとってくると味覚や臭覚が衰えてきて、食べ物を認識できず食欲が失せてくる事があります。まずは、ごはんを温めて香りをだしてあげましょう。

それでも食べない時は、まず、食欲不振になった病気の原因を知るために、全身の検査をします。

病気によっては、飼い主さんが食事を口に入れてあげるケアも必要になります。それを強制給餌といいます。

その子にあったごはんをペースト状にしてシリンジ(注射器のようなもの)で口に直接的に入れてあげます。この場合、誤嚥すると命にかかります。開始時には、まず、獣医師にご相談ください。

・排便、排尿の問題

若い時に比べて、腎臓の機能低下などにより排尿回数が増えることが多いようです。また脊椎の痛みなどによって今まで出来ていたトイレが出来なくなり、家の色々な所でしてしまうということが起こるかもしれません。

おむつや介護マットなど、いろいろなペットの介護用品が販売されているので、活用を考えましょう。

また、脊椎や腸などの問題で、排便がしにくくなる動物もいます。便が排出できなくなると、とても苦しいし最終的には命に関わってきますので、早めに受診しましょう。



・巡回運動

年をとると寝たきりだけではなく、クルクルと巡回して歩き続けることもあります。その時、壁などにぶつかって進めないとそのままの状態です。これは認知症のように脳に問題が起きている可能性があります。

ぶつからないように円サークルにいれるなど、工夫をしましょう。周りは柔らかいマットで囲ってあげると安心です。

・吠えの問題

夜や明け方になると眠れずに吠えてしまう。年をとると視力や聴力が衰え不安になり鳴いたり、ご飯が食べたい、トイレにいきたいなどという要求で鳴いたりすることがあります。

原因は様々ですが、見守れるように飼い主さんの近くに寝かせたり、生活リズムも見直してみましょ。近所迷惑になるほど吠えがひどい場合は、獣医師にご相談ください。

・褥瘡(じよくそう)

高齢になると体の新陳代謝がうまくいかず、身づくろいもしなくなり、フケや体臭などが増えることがあります。なので、毎日のブラッシングや体拭きなどをして、常に体を清潔に保ちましょう。

高齢動物が立ち上がれなくなって寝たきりになると下にしている部分だけに体重がかかり、その部分の皮膚が血行不良により壊死していきます。これを褥瘡といいます。特に大きい犬は、要注意で、骨が出っ張っている部分(ほお、肩、腰、足首など)がなりやすいです。

予防するには、体位変換が必要です。約2時間に1回くらいが理想的ですが、できる範囲でやってあげてください。またベッドを低反発介護マットにするなどに工夫してみましょう。

・安楽死

治癒が困難で、疼痛などの苦しみが続くような病状に陥った場合、動物の安楽死が適用されることがあります。とても難しい選択なので、常日頃から、飼い主さんご家族全員で、よく話し合っておく必要があります。

動物看護師 竹内

ゴールデンウィークのペットホテル
ご予約は、混みあいますので、
お早目に！！



有限会社 K A C

金町アニマルクリニック
東京都葛飾区金町
2-29-6 KAGビル
☎ 03-3609-7517

永代橋アニマルクリニック
東京都江東区永代
1-9-1
☎ 03-5875-8771